

PRIMERGY C150 使用上の注意

このたびは、弊社の PRIMERGY（プライマジー）C150 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。本サーバをご使用になる上での留意事項がございますので、本書をよくお読みの上、ご使用願います。

平成 14 年 5 月
富士通株式会社

留意事項

1. Windows NT 4.0 Server のインストールについて

Windows NT Server 4.0 の手動インストールを行う場合、PCI カードの組み合わせによっては、Windows NT Server 4.0 の問題 (Microsoft KB:Q148501) により、PCI Parity Error または PCI System Error が発生する場合があります。

Windows NT Server 4.0 を手動でインストールする場合は、インストール前に内蔵ハードディスクユニットが接続されている PCI カード以外の PCI カードを全て外してください。

Windows NT Server 4.0 の手動インストールが完了し、ServicePack 6a を適用した後、取外したカードを搭載してください。

ServerStart を使用してインストールを行う場合は、問題ありません。

ServerStart でのインストールを推奨します。

2. PRIMERGY ServerView の注意事項について

本体装置の OS 起動後、OS イベントログ - アプリケーション内に下記警告メッセージが格納される場合があります。

ソース	:SWITCHServer
種類	:警告
説明	:Initialization not completed timely (300 seconds).

この情報が格納された場合には、以下の処理を行ってください。

スタート→プログラム→Fujitsu ServerView→SNMP Agents→Restart Services
"Restart Services"内、"Restart"を実行してください。

処理が終了しましたら、"Exit"で終了してください。

制限事項

1. ソフトウェア更新について

■ IDE RAID 管理ツール、デバイスドライバの更新

本製品にプレインストールされているソフトウェア (IDE RAID 管理ツール、デバイスドライバ)、および ServerStart CD 同梱のソフトウェアに不具合があります。下記ソフトウェアをフロッピーディスクで添付していますので、本製品を御使用になる前、および OS 再インストール後は、必ず下記ソフトウェアへの更新をお願い致します。

更新手順につきましては、『IDE アレイコントローラカード取扱説明書』上の「第 4 章 ソフトウェアのインストール」を参照してください。

IDE RAID Card FastTrak100LP Drivers Disk V2.00 L20

IDE RAID Card FastTrak100LP Utilities Disk V1.31 L70

2. IDE アレイコントローラカード の Synchronize(一貫性チェック)処理について

■ 一貫性チェックの実施

一貫性チェックは、一貫性の検査だけでなく、ハードディスクの媒体エラーを自動的に修正する機能もあります。一貫性チェック処理を定期的の実施し、媒体エラーを早期に修正することをお勧めします。

■ 不一致 (Comparison Error) の誤報告

一貫性チェック (Synchronize) 処理時、誤って不一致 (Comparison Error) が報告される場合があります。不一致が検出された場合、以下の対処をお願い致します。

- 1) 再度、一貫性チェックを実施してください。(1 日 1 回の定期実行設定の場合、翌日実施)
- 2) 1 回目に不一致が報告された LBA (セクタ) と 2 回目のものを比較してください。
- 3) 不一致が報告された LBA が同一でなければ、誤通知です。問題ありませんので、そのままご使用ください。
また 2 回目で不一致が報告されず正常終了した場合も問題はありません。

■ 一貫性チェック完了時の通知

一貫性チェック（Synchronize）処理時、ServerView が「Unknown」および「ECC Error」イベントをエラーとして通知します。誤通知ですので、無視していただく様、お願い致します。

- 「Unknown」については、誤通知ですので無視してください。
- 「ECC Error」については、OS のイベントログ（システムログ）を確認し、以下のイベントが通知されていなければ誤通知ですので無視してください。

ソース： Disk

イベント ID： 7

説明： デバイス¥Device¥Harddisk0¥DR0 に不良なブロックがあります。

なお、誤通知イベントは以下の方法で ServerView アラームサービスを設定変更することにより、通知を抑止できますので、設定変更をお勧めいたします。設定方法の詳細については、「ServerView ユーザーズガイド」を御参照ください。

- 1) 新規アラームグループを作成します。
- 2) 「アラームグループの作成/編集」画面を開きます
- 3) 「アラームの選択項目」で「ファイル別」を選択し、ファイル名として“fasttrak.mib”を選択します。
- 4) 「アラームの一覧」で、“Sync Completed, ...”および“ECC Error ...”以外をすべて「グループに属するアラーム」に設定します。
- 5) 「アクションの作成 / 編集」画面において、処理の設定をおこないます。
作成したアラームグループを選択し、“ログ”を選択し“EventLog”を選択された設定に移します。（適用ボタンで設定完了）
次に“ポップアップ”を選択し“Default_Popup”を選択された設定に移します。
（適用ボタンで設定完了）
「アクションの作成 / 編集」画面において、“適用”ボタンで処理の設定を行います。
- 6) アラーム設定の「共有設定」画面において“デフォルトアクション”欄の“メッセージのポップアップ”および“イベントログの格納”のチェックを外してください。
注意： この処理が有効になっている場合、作成したグループの処理に関係なく“メッセージのポップアップ”および“イベントログの格納”が有効になります。

実際に ECC Error が発生した場合は、設定変更により通知を抑止していても OS のイベントログ(システムログ)上に上記イベントが通知されますので、ECC Error の発生を確認することが可能です。

3. IDE アレイコントローラカード のリビルド(アレイ再構築)処理について

■ 電源切断の禁止

本製品の BIOS 版数が下記である場合、FastBuild Utility 上でのリビルド処理中に本体の電源が切断されると、アレイが Offline 状態となります。FastBuild Utility によるリビルド処理中は本体の電源が切断されない様、ご注意願います。

版数 : BIOS V2.00.0064.02
BIOS 版数確認方法 : 電源投入後の POST 時、IDE アレイコントローラカードの POST メッセージ (下記) で版数が表示されます

FastTrak100 TX2/LP (tm) BIOS Version 2.00.0064.02 BIOS 版数

なお、停電等で電源切断が発生し、アレイが Offline 状態となった場合、以下の手順で復旧作業を実施してください。

1. IDE RAID カード(FastTrak100LP)の POST 時に、[Ctrl]キーと[F]キーを同時押し、FastBuild Utility を起動します。
2. メインメニューから「3. View Drive Assignment」を開き、各ディスクの状態を確認します。状態が「Free」であるディスクがリビルド元（交換しなかったディスク）、「Array1」であるディスクがリビルド先（交換したディスク）であることを確認します。

[View Drives Assignment]				
Channel:ID	Drive Model	Capacity (MB)	Assignment	Mode
1:Mas	FUJITSU MPG3204AH	19546	Array 1	U5
2:Mas	FUJITSU MPG3204AH	19546	Free	U5

上記表示の場合、Channel1 側のディスクがリビルド先、Channel2 側のディスクがリビルド元になります。交換したディスクがリビルド先（Array1 表示）であることを確認してください。

3. 「4. Delete Array」を開き、アレイを削除します。
 - ① FastBuild Main Menu の「4. Delete Array」を選択してください。以下の画面が表示されます。

[Delete Array Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Dev	Capacity (MB)	Status
Array 1	Mirror	2	19546	Functional
Array 2	----	----	-----	-----
Array 3	----	----	-----	-----
Array 4	----	----	-----	-----

- ② [Del]キーを押下してください。
- ③ 以下の確認メッセージが表示されます。

Are you sure you want to delete this array? Press Ctrl-Y to Delete, or others to Abort....

- ・ [Ctrl]+[Y]キーを押下すると、選択したディスクアレイが削除されます。
- ・ ディスクアレイの削除を中止する場合は、[Ctrl]+[Y]キー以外を押下してください。

- ④ [ESC]キーを押下して、Main メニューに戻ります。

4. 「1. Auto Setup」を開き、アレイを再作成処理により、ディスク間でデータを再度複写します。

- ① FastBuild Main Menu から「1. Auto Setup」を選択すると、以下の画面が表示されます。

[Auto Setup Options Menu]	
Optimize Array for :	Performance
Typical Application to use :	DESKTOP
[Array Setup Configuration]	
Mode	Stripe
Spare Drive.....	0
Drive(s) Used in Array	2
Array Disk Capacity (size in MB)	39093

- ② Optimize Array for に[↑]キーあるいは[↓]キーによってカーソルを移動し、[Security]が表示されるまで[Space]キー、[←]キー、あるいは[→]キーを何度か押下してください。
- ③ 正しく設定が行なわれると、以下のような表示になります。

[Auto Setup Options Menu]	
Optimize Array for :	Security
Typical Application to use :	Not Available
[Array Setup Configuration]	
Mode	Mirror
Spare Drive.....	0
Drive(s) Used in Array	2
Array Disk Capacity (size in MB)	19546

- ④ [Ctl]+[Y]キーを押下してください。以下のメッセージが表示され、データの二重化(ディスクアレイの初期化)を行なうかどうかを尋ねてきますので[Y]キー

を押下してください。

Do you want the disk image to be
Duplicated to another? (Yes/No)
Y - Create and Duplicate
N - Create Only

- ⑤ ディスクアレイを構成するドライブの一覧が表示され、いずれのハードディスクからデータを複写するかを尋ねてきます。

[Please Select A Source Disk]		
Channel:ID	Drive Model	Capacity (MB)
1:Mas	FUJITSU MPG3204AH	19546
2:Mas	FUJITSU MPG3204AH	19546

- ⑥ [↑]キーあるいは[↓]キーによって、リビルド元のハードディスクにカーソルを移動後、[Enter]を押下してください。
- ⑦ ディスクの複写処理開始の確認メッセージが以下のように表示されますので、[Y]キーを押下してください。複写処理が開始されます。

Start to duplicate the image...
Do you want to continue? (Yes/No)
Y - Continue, N - Abort

- ⑧ 複写処理中は、以下のように二重化処理状況が表示されます。

Please Wait While Duplicating The Image
■ ■ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ 12%
Completed

- ⑨ 複写処理が終了すると、以下のメッセージが表示されます。いずれかのキーを押すとサーバ本体がリブートします。

Array has been created....
<Press Any Key to REBOOT>

4. IDE アレイモデルの OS 再インストールについて

■ アレイの作成、および初期化

本製品添付の ServerStart は、IDE アレイコントローラカードに対するディスクアレイ作成機能に不具合があります。本製品に OS をインストールする場合、FastBuild Utility によりディスクアレイの作成、初期化後、ServerStart を用いてのインストールを実施してください。

ディスクアレイの作成、初期化方法については、『IDE アレイコントローラカード取扱説明書』上の「1.4 ディスクアレイの作成と初期化」を参照してください。

注意事項

1. PG-129 複数枚搭載時の設定について

PG-129 を複数枚搭載する場合、SCSI コンフィギュレーションユーティリティを用いて設定変更が必要となります。下記手順に従い設定変更をお願い致します。

なお、本設定を行わない場合、PG-129 に接続されたディスクから起動できない場合があります。

- 1) SCSI コンフィギュレーションユーティリティを起動し、Boot Adapter List に移動します。
- 2) Adapter List(画面下部)に表示されている SCSI カードが、全て Boot Adapter List(画面上部)に表示されていないければ、以下の手順で追加します。
 - ・ [Insert]キーを押下し、画面下部の Adapter List にカーソルを移動します。
 - ・ 追加する SCSI カードにカーソルを合わせて[Enter]キーを押します。選択した SCSI カードが Boot Adapter List(画面上部)に追加されます。
- 3) Boot Adapter List(画面上部)に表示されている全ての SCSI カードについて、Next Boot を On に設定変更します。
- 4) メインメニューに戻り、SCSI コンフィギュレーションユーティリティを終了させます。

2. 内蔵 CD-ROM ユニット、内蔵 DVD-ROM ユニットおよび内蔵ハードディスクユニット (IDE) の DMA モードへの変更について

本サーバに搭載している内蔵 CD-ROM ユニット、内蔵 DVD-ROM ユニットおよび内蔵ハードディスクユニット (IDE) を UltraDMA モードで動作させることができます。

出荷時の PIO モードで動作させると CPU への負荷が高くなりますので、UltraDMA モードへ変更しての運用を推奨します。

■ 注意事項

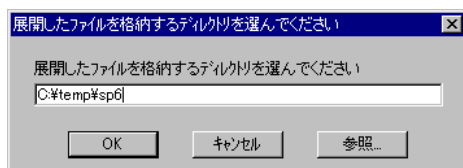
- ・ BIOS セットアップユーティリティで以下の項目が設定されていることを確認してください。本項目は、変更不可の項目ですので、通常は設定値を確認するだけで、変更不要です。
 - [Main] メニューの各 IDE ドライブの「PIO Mode」が下記の表示になっていること
- | 接続デバイス | PIO Mode 設定値 |
|-----------------|------------------|
| 内蔵 CD-ROM ユニット | PIO 4 / UDMA 33 |
| 内蔵 DVD-ROM ユニット | |
| 内蔵 ハードディスクユニット | PIO 4 / UDMA 100 |
- [Advanced] メニューの「ATAPI UDMA Auto Detect」が「Standard」になっていること
 - ・ Windows NT Server 4.0 で変更を行うには、Service Pack 6a 以降が必要です。ハードディスクを Ultra DMA モードに変更する前に、該当ハードディスクの内容をバックアップすることを推奨します。
 - ・ Windows 2000 Server の HDD は、最初から DMA モードになっているので変更は不要です。

■ Ultra DMA モードへの変更手順 (Windows NT Server 4.0)

1. Service Pack 展開用のディレクトリを作成してください。(例 : C:\temp\sp6)
Service Pack の展開には、約 141MB の空き容量が必要になります。
2. ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。
3. [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
[名前] に、以下のコマンドを入力し、[OK] を選択します。(CD-ROM ドライブが D ドライブの場合)

D:\PROGRAMS\Japanese\SP\SP6I386.EXE /X

4. Service Pack を展開したファイルを格納するディレクトリを指定し、[OK]を選択します。
Service Pack が指定したディレクトリに展開されます。



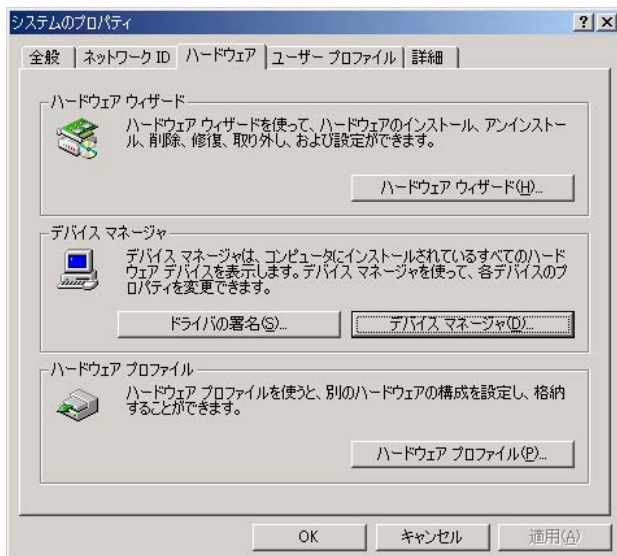
5. 4.で Service Pack を展開したディレクトリに移動し、"dmacheck.exe" を実行します。
6. [ATAPI DMA サポート] ダイアログボックスが表示されます。
IDE/ATAPI チャンネル毎に「DMA 検出状態」のオプションボタンが表示されるので、DMA 転送を行いたいチャンネルのオプションボタンの「有効」をチェックします。



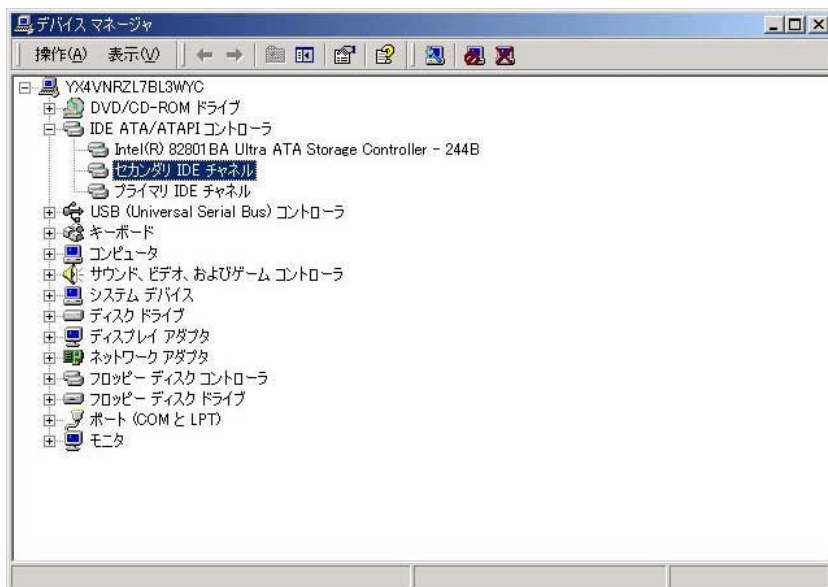
7. 設定後、[OK] を選択します。
8. DMA を有効に設定した場合、システムのバックアップを推奨する警告メッセージが表示されます。
バックアップが完了している場合は [はい] を選択します。バックアップを行っていない場合でも [はい] を選択することにより変更が可能です。
9. 確認のメッセージが表示されます。
10. システムの再起動後、DMA モードでの動作が可能となります。

■ Ultra DMA モードへの変更手順 (Windows 2000 Server)

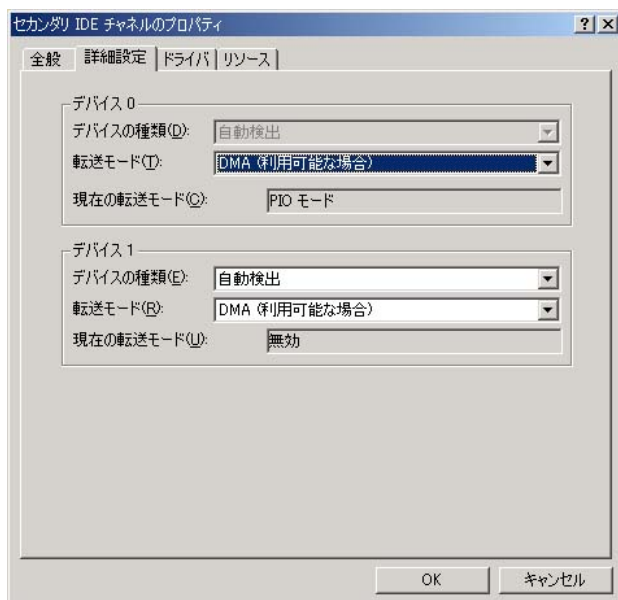
1. マイコンピュータを右クリックして、[プロパティ] を選択してください。
2. [ハードウェア] タブを選択し、[デバイスマネージャ] を起動します。



3. デバイスマネージャ起動後、[IDE ATA/ATAPI コントローラ] 配下の [セカンダリ IDE チャネル] のプロパティを開きます。



4. [セカンダリ IDE チャンネルのプロパティ] の [詳細] タブを選択します。
5. デバイス 0 の転送モードを「PIO のみ」から「DMA (利用可能な場合)」に変更し、[OK] ボタンを押します。



6. 設定完了後、システムを再起動してください。
7. 再起動後、DMA モードでの動作が可能となります。

追記

8.2 エラーメッセージ(取扱説明書 P.235)

メッセージの追加がありました。

メッセージ	内容と対処
PCI System Error On Bus/Device/Function xxxh	担当保守員に連絡してください。
PCI Parity Error On Bus/Device/Function xxxh	

PRIMERGY C150 Usage Cautions

The following usage cautions and errata apply to this PRIMERGY C150 ,please read them carefully.

May 2002
FUJITSU LIMITED

Notes

1. Install Windows NT 4.0 Server

While system is installed from Windows NT 4.0 Server CD-ROM without ServerStart, Parity Error and System Error of PCI bus may be occurred by the problem of Windows NT 4.0 Server. (Microsoft Knowledge Base : Q148501)

When NT4.0 install from Windows NT 4.0 Server CD-ROM without ServerStart, following procedure is recommended.

- 1) Remove all PCI cards except connected HDDs.
- 2) Install OS from Windows NT 4.0 Server CD-ROM.
- 3) Install Service Pack 6a.
- 4) Install all PCI cards.

If ServerStart is used for system installation, this problem is not occurred.
Installation with ServerStart is recommended.

2. Windows Event Log

When the Windows system is booted, the following error message may be displayed on Event Log. This message should be disregarded.

Source	: SWITCHServer
Type	: Warning
Description	: Initialization not completed timely (300 seconds).

If this log is logged in Event log, restart SNMP Agents by execute Restart^{*1} from Start button.

^{*1} : [Start] – [Fujitsu ServerView] – [SNMP Agents] – [Restart Service] – [Restart]

Press [Exit] button after restarting Service is finished.

3. Setting change when two or more PG-129 are installed in system

When two or more PG-129 are installed in system, setting change is needed using a SCSI configuration utility. Please change the setting according to the following procedure.
In addition, when not performing this setup, it may be unable to start from HDD connected to PG-129.

- 1) Start SCSI configuration utility and move to Boot Adapter List.
- 2) If all the SCSI cards that displayed on Adapter List (screen lower part) are not displayed on Boot Adapter List (screen upper part), they add in the following procedures.
 - Push [Insert] key and cursor is moved to Adapter List of the screen lower part.
 - Select cursor with the SCSI card to add and push the [Enter] key. The selected SCSI card is added to Boot Adapter List (screen upper part).
- 3) Next Boot value is change to "On" about all the SCSI cards displayed on Boot Adapter List (screen upper part).
- 4) Return to Main Menu and Exit SCSI Configuration Utility.

4. Changing to DMA mode for Internal CD-ROM Drive, DVD-ROM Drive and HDD (IDE)

PRIMERGY C150 can use Ultra DMA mode for Internal CD-ROM Drive, DVD-ROM Drive and IDE HDD.

The load to CPU will become high if it is made to operate by PIO mode at the time of shipment. The employment changed into UltraDMA mode is recommended.

■ Notes

- Please check that the following values are set up in a BIOS setup utility.
 - PIO Mode value of each IDE drive is the following display in the Main menu

Device	Value of PIO Mode
Internal CD-ROM Drive Internal DVD-ROM Drive	PIO 4 / UDMA 33
Internal HDD (IDE)	PIO 4 / UDMA 100

- ATAPI UDMA Auto Detect value is set up Standard in the Advanced menu
- In order to change by Windows NT Server 4.0, Service Pack 6a or later is required. Back up of the data is recommend before changing to Ultra DMA mode.
- HDD is set "DMA mode" from the first setup by Windows 2000 Server, it is not necessary to change mode.

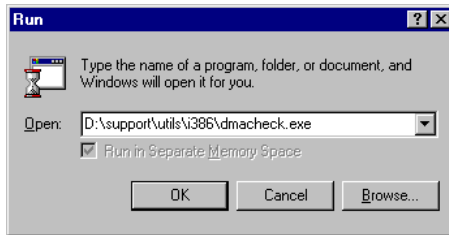
■ Change procedure to Ultra DMA mode (Windows NT Server 4.0)

1. Service Pack 6a CD-ROM is set to a CD-ROM drive.
2. Choose [Run] from [Start] menu.

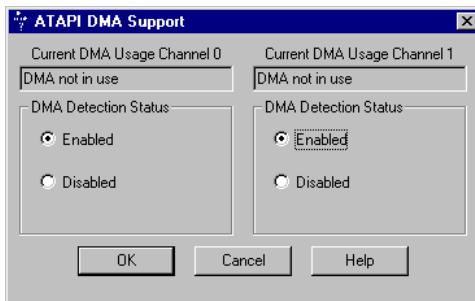
Type below command, and press [OK].

D:\support\utils\i386\dmacheck.exe

(This is a sample when CD-ROM drive is a D drive)

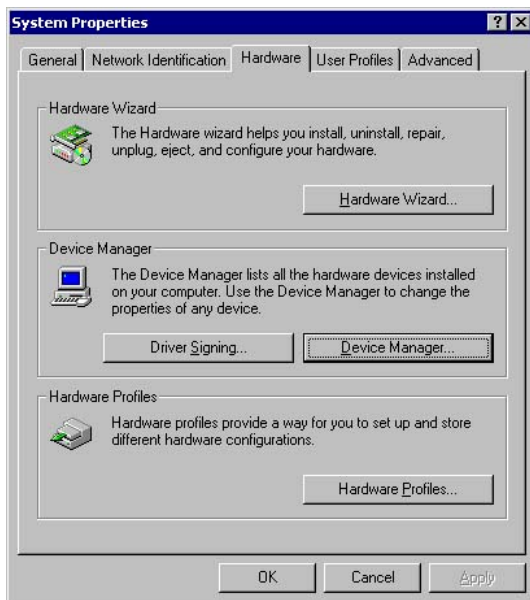


3. [ATAPI DMA Support] dialog box is displayed.
[DMA Detection Status] is displayed every IDE/ATAPI channel, and check the option button of [Enabled].

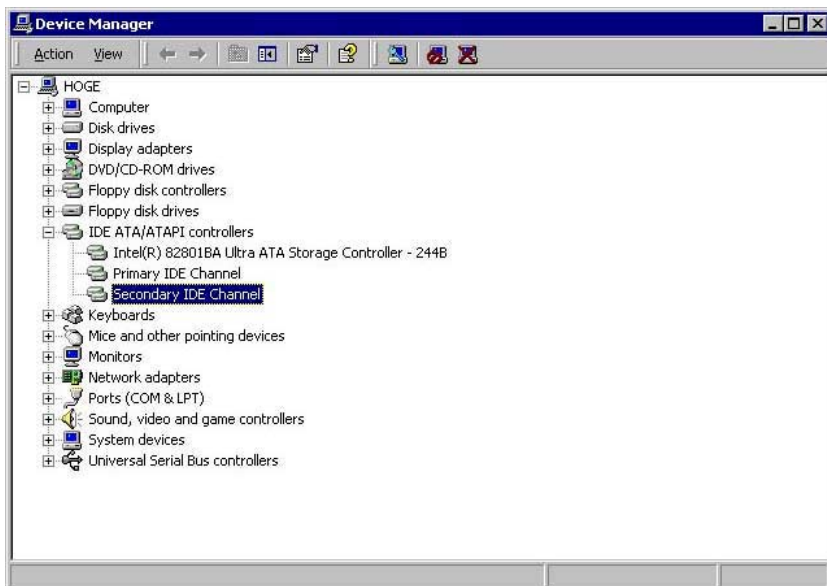


4. Press [OK] after setting is done.
5. When DMA is set up effectively, the warning message is displayed which recommends system backup.
If backup of the system is done, press [OK]. Else if the backup has not been done yet, it can be changed that you choose [OK].
6. The message which changing to DMA mode is displayed.
7. Reboot a system after the completion of a setting and DMA mode is enabled.

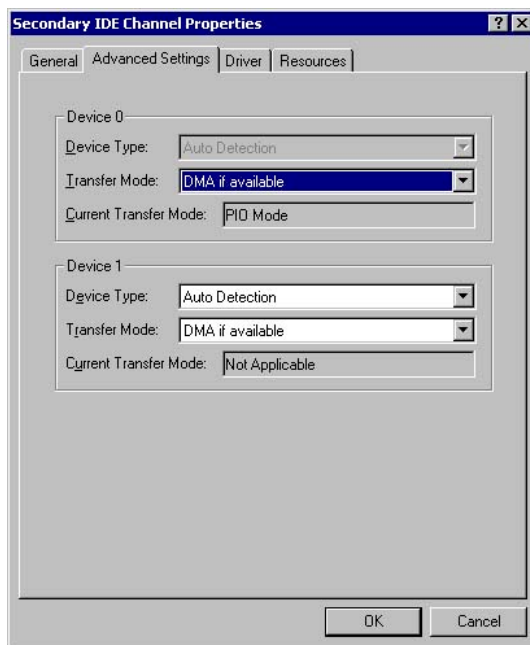
- Change procedure to Ultra DMA mode (Windows 2000 Server)
 1. Click My Computer by right button of mouse, and choose [Properties].
 2. [Hardware] tab is chosen and press [Device Manager] button.



3. Open [Secondary IDE Channel] Properties in Device Manager.



4. Select [Advanced Settings] tab in Secondary IDE Channel Properties.
5. Change Transfer Mode of Device 0 from [PIO Only] to [DMA if available] , and click [OK] button.



6. Reboot a system after the completion of a setting.
7. DMA mode can be used after reboot.

Adds

Error Messages (BIOS Setup P.55)

Below message is added.

PCI System Error On Bus/Device/Function xxxh

PCI Parity Error On Bus/Device/Function xxxh

If the message is displayed, please contact your sales outlet or customer service center.